退任にあたって

前総務常任理事
越谷市立病院
矢部　智

埼玉県放射線技師会とのかかわりは、職場にかかってきた1本の電話から始まりました。当時、私の所属する第5地区は、混迷期と云うべく思うように活動が進んでいない状況のようでした。そんな中で、執行部に地域活性の目的があったかは定かでありませんが、第五地区の地域病院と云うことで声がかかったのが始まりでした。誰かの紹介でもなく、知った顔の方は一人もおらず大変不安だったことを今でも覚えています。最初にお手伝いをさせていただいたのは、編集委員会でした。この『埼玉放射線』の会誌を編集する作業でした。正直、担当するまでは会誌もペラペラと目を通す程度で熟読することはありませんでした。しかし、編集委員会では、入稿された原稿を一字一句チェックして校正を行う作業が続き、当時で約1,200部の会誌を一部ずつ封筒詰めして、宛名シールを張る作業は今でも忘れられません。作業は大変ではありましたが、埼玉各地から集まる編集委員の方々と情報交換ができたことは、仕事やプライベートに至るまでとても参考になりました。会誌の編集作業を行うことで技師会の1年間のスケジュールやイベントが把握できました。昨今、会員の方のネット環境も職場や自宅での普及も進み、ホームページの閲覧やメールマガジンの配信により情報を得る手段も増え会員の利便性は向上していることでしょう。当時はそれなりに会誌にかかる期待が高かった分、違うプレッシャーがあったように思います。編集委員会には、二期4年間お世話になり、田中宏（現、総務担当常任理事）編集委員長の元で楽しく活動させていただきました。また、藤間英雄　前会長から小川清　現会長へとバトンタッチが行われたのがちょうどこのタイミングでした。小川会長より公益担当理事として打診の電話を受けた時には、大変びっくりしたことを今でも鮮明に覚えています。当時の川田俊彦常任理事にご指導いただきながら、いろいろなことを教えていただきました。初めて理事会に出席した時は、とても緊張しました。もともと編集委員だったので、会誌は一通り目を通していたつもりでした。会誌の中には報告（事の顛末）が掲載されていますが、理事会に出席して報告する事の大変さがよくわかりました。と云うのも、報告（結果）を出すためのプロセスに理事の方々が会員の見えないところでこんなにも熱く議論を交わし、裏で努力している姿は会誌をいくら熟読してもなかなか見えてこないと思います。もちろん理事の努力を会員に見せる必要もないのですが、同じ放射線技師として仕事をしている同志として、理事の活動に感銘・感動を受けたと同時に、自分の立場に今後の不安も感じました。公益担当の活動の一つである漏洩線量測定では、いろいろな施設を訪問させていただきました。県内とはいえ、一日がかりで往復することもありました。半日で数施設回ることもありました。大雪の中、線量計やファントムを持って電車で移動したことは今でも良い思い出です。また、医療画像展が全地区で催されるようになったのもこの頃で、新たに放射線検査の説明をした展示用のパネルを企画・作成しました。また、当時の磯田一巳副会長には公益事業でご一緒させていただく機会も多く、良い意味でガス抜きもして頂き楽しく活動させて頂きました。公益担当は一期2年の間でしたが、とても良い経験をさせて頂きました。

退任までの二期4年間を活動させていただいたのが総務委員会でした。総務は、組織全体に関する事務を扱う多種多様の会務でした。一期目は、前任の田中達也常任理事にご指導を仰ぎ、現在の橋本副会長が当時の総務委員長の体制でご一緒させていただきました。総務担当業務を把握するだけであっという間に2年が経ってしまいました。その間、新公益法人制度改革に向けて動き出したのもこの時期からでした。総会にて「新・公益社団法人」を目指すことに決議された意味は重く、堀江副会長を委員長に公益法人改革検討委員会を発足させて、新定款や諸規定の検討を始めました。定款を定める意味の深さや会務に則した諸規定の検討は、大変困難な道のりでした。また、埼玉会員カードを全会員に送付したのもこの時期でした。二期目は、田中宏総務委員長の元で総務担当として続投させていただきました。前期から継続している新公益法人格取得に向けた準備に加え、データベース検討委員会も発足させ同時進行となりました。会員カード発行に伴い、会員データベースを整備して、会務の効率化を図ると共に、会員の利便性向上を目的として動き始めました。当時の松田常任理事が交流事業として会津大学と協力しWeb型データベースの試作を行ったのもこの時でした。また、日本放射線技術学会第57回関東部会研究発表大会において合同企画『地域医療における画像連携』～半切フィルムからCD-Rへ～と題したシンポジウムを企画・開催し、他団体との共同も行いました。年度末の3月11日に発生した未曾有の東日本大震災は、東京電力福島原子力発電所の重大事故を誘発させ放射性物質が漏出してしまいました。この事故により、内閣府原子力安全委員会と福島県から日本放射線技師会へ放射線サーベイの要請があり、私もサーベイヤーとして志願させていただきました。この件は、技師会の理事という立場は関係ありませんでしたが、任期中での参加だったこともありいろいろな意味で勉強になりまた、考えさせられた出来事でした。技師会が今回のような国難の有事に内閣府や県の機関から応援の要請を受けたのも、日頃の技師会の活動が適正に評価され信頼されている証と自負するところです。その技師会という組織で執行部の一役を担当させていただいたことは、私にとってたいへん貴重な経験となりました。この経験を自身の今後に活かして行きたいと思います。

最後に、在任中に大変お世話になりました小川会長をはじめ執行部の方々に感謝を申し上げますと共に、今後の埼玉県放射線技師会の益々のご繁栄を祈念して、退任のご挨拶とさせていただきます。